

地域の暮らしのサポーター 集落支援員

地域の实情に詳しい人材を配置し、集落に寄り添って見守り活動を行います。市・関係機関と連携し、高齢者の暮らしと集落を維持するための共助を促進する役割を担っています。現在11人が活動中です。

市民がつくる 新しい地域のカタチ

地域づくりのパートナー 地域おこし協力隊

都市部から市内に住民票を移した人を「地域おこし協力隊」として任用。最長3年間、地域の魅力PRやイベントの運営など地域協力活動を行いながら、地域への定住・定着を図ります。これまでに9人が市内に定住し、現在10人が活動中です。

栃尾 地域交流の きっかけづくり



西谷地区担当
(田之口・西野俣・
中・木山沢・森上)
藤崎 将之さん

活動が“出来ない”を“出来る”に変える

感染症の影響で、多くの地域行事が中止になりました。住民の高齢化も進み、これまでのような行事の継続も難しくなっています。
田之口集落の「かかしまつり」は10年以上続く地域の恒例行事。今年は感染症による自粛やかかしの作り手不足で開催が危ぶまれましたが、同様の祭りをを行う小国地域からかかしを借りることで実現できました。
住民だけでは難しい地域間の連携や調整をしているのですが、地域の支えになっていければうれしいです。「何が問題なのか」「どんなことをしたいのか」などの声に耳を傾け、住民主体で地域の交流が続くよう、これからも地域を見守っていきたくです。



▲毎年お盆時期に開催する「かかしまつり」

和島 将来に向けた 課題の解決



和島地域担当
若山 里美さん

次の世代へのつながりを後押ししたい

地域の人たちと関わる時に意識しているのは、「声を出さないと置いてけぼりになるよ」と声を掛けること。地域と行政の橋渡しはもちろん、10年先を見据えて次の世代につながる地域づくりをお手伝いしていきたいです。
ICTを活用した高齢者の見守りの導入もその一つ。お子さんが遠方に住んでいる一人暮らしの人は、特に興味を示してくれています。今後は実際にタブレット端末などを触ってもらう機会をつくり、地域を良くするための足掛かりにしていきたいです。



地域の声
八子 明美さん (阿弥陀瀬集落)
若山さんは地域のことをよく知っていて、みんなの気持ちをつかむのが上手です。地域に溶け込みながら、全体をつなげる役割を担ってくれています。

岡地域振興戦略部 ☎ 39・2515

地域に移り住み、地域を盛り上げる人。地域に支えられ、そこで恩返しをしたい人。昔からなじみのある場所で、安心を届ける人。
近年、少子高齢化やライフスタイルの変化、そして新型コロナウイルス感染症の影響などで、「人と人」の関わり方や価値観が変化しつつあります。そのような中、新しい視点、新しい関係性、新しい技術で地域課題の解決や地域コミュニティの維持などのために活動している人がいます。
今、長岡では自分たちの住む地域をより良くしようという動きが活発になっています。

“よそ者”の視点で、より良い地域に

除雪の担い手不足を解消するため、有償除雪ボランティア受け入れの仕組みづくりを進めています。ゼロから新しいものを作ることは大変ですが、住民の生活を支え、地域と地域外の人をつなぐ貴重な経験です。システムの完成まで携わりたいと思い、任期後も山古志に残って事業に取り組んでいます。



▲やまこし復興交流館おらたろでスタッフとして働く和田さん

協力隊の強みは、第三者の視点を持ちながら、住民として地域の人とチームになって、地域のために活動できること。地域に深く入り込み、「よそ者」だからこそ感じられる山古志の良さを住民の人たちと一緒に発信していきたいです。

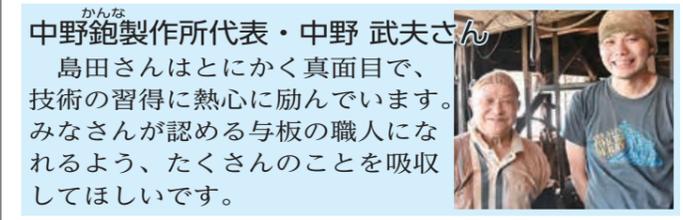
山古志 雪国の課題解決



NPO法人
中越防災フロンティア
和田 奈都子さん
平成29年3月～
令和2年2月に活動

技を磨き、打刃物の魅力を伝える存在に

地域の人たちに支えられ、これからもこの場所で続けていけると感じた協力隊での活動。独り立ちすることを目指し、退任後も親方の下で技を学んでいます。
伝統工芸と一言で言っても、職人はそれぞれが工夫し、自分だけのものを作っています。そんな打刃物の面白さと「こんなことができる道具があって、それを作っている人がいる」ということを多くの人に知ってもらいたい。まずは技術を習得し、いずれは日本だけでなく海外にも打刃物の魅力を伝えていくことが目標です。



中野鉦製作所代表・中野 武夫さん
島田さんはとにかく真面目で、技術の習得に熱心に励んでいます。みなさんが認める与板の職人になれるよう、たくさんの方のアドバイスを吸収してほしいです。

与板 伝統の継承



越後与板打刃物匠会
島田 拓弥さん
平成29年6月～
令和2年5月に活動